

はじめに

平素より地域の感染症対策にご協力いただきありがとうございます。

医療機関向け情報には **医** を、一般施設向け情報には **全** をつけています。

原則毎月第2・4木曜日に配信し、新たな通知や感染症情報等がある場合、随時臨時号を配信いたします。

全数報告：第30週～第31週（7月22日～8月4日） 定点報告：第27週～第31週（7月1日～8月4日）

全数報告疾患情報

医

——市川保健所管内で報告のあった疾患のみ掲載しています

※定点報告疾患については、第27週～第31週のグラフを別添しております

二類感染症	30～31週	累計（年）
結核	8	75

四類感染症	30～31週	累計（年）
レジオネラ症	1	6

三類感染症	30～31週	累計（年）
腸管出血性大腸菌感染症	1	11

五類感染症	30～31週	累計（年）
梅毒	2	28

発生動向トピックス

医

全

Topics1

オリンピック病？マイコプラズマ肺炎の報告数が増加傾向です

千葉県第31週の定点当たり報告数は0.33人となっており、減少傾向ではありますが、過去5年間の同時期と比較すると高い水準で推移しています(図1)。また、全国においては報告数は増加傾向です(図2)。

マイコプラズマ肺炎は、従来4年間周期でオリンピックのある年に流行を繰り返し、「オリンピック病」と呼ばれていましたが、近年この傾向は崩れつつあります。

病原体は、肺炎マイコプラズマであり、生物学的には細菌に分類されます。

感染経路は、飛沫感染と接触感染です。家庭内や学校等の濃厚接触が多い場所でしばしば集団発生が起こります。短時間の暴露による感染拡大の可能性はそれほど高くないとされています。

図1

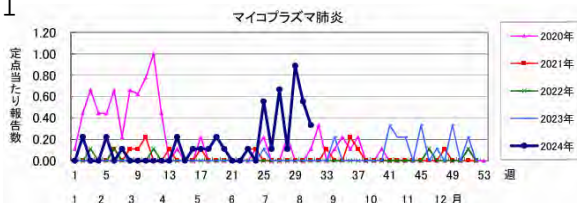
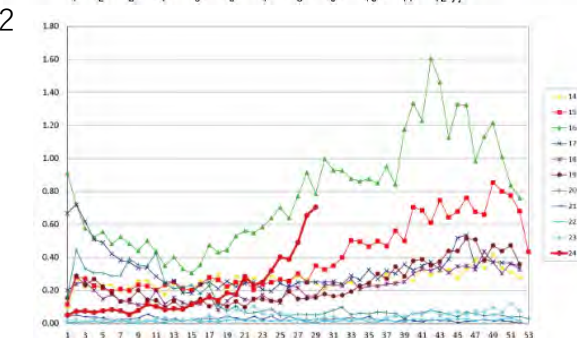


図2



2~3週間の潜伏期間を経て、発熱や全身倦怠感、頭痛、咳といった症状が出現します。咳は3~4週間程度続くのが特徴的です。多くは、感染しても気管支炎程度の軽い症状が続きますが、一部は肺炎となり重症化することがあります。

治療は、抗菌薬による治療が基本となり、マクロライド系抗菌薬が第一選択薬となります。

予防方法は、インフルエンザと同様の対策を行いましょう。普段から手を洗い、咳の症状がある場合にはマスクを着用する等の咳エチケットを守りましょう。

感染症解説

マイコプラズマ肺炎

症状

2~3週間

潜伏期間

発症

発熱、全身倦怠感、頭痛
咳等が出現

発症から3~4週間

解熱後も咳が続く

肺炎にしては元気で一般状態も悪くないことが特徴
重症化し入院治療が必要な場合もある

感染経路

- ①飛沫感染
- ②接触感染

感染対策

基本的な感染対策(手洗い、咳エチケット)が重要
ワクチンはない



学校保健安全法 第3種学校感染症 その他の感染症

症状が改善し、全身状態の良い者は登校（園）可能

【参考】厚労省：マイコプラズマ肺炎に関するQ&A

<https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou30/>

【参考】国立感染症研究所：マイコプラズマ肺炎とは

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/503-mycoplasma-pneumoniae.html>

【参考】国立感染症研究所：マイコプラズマ肺炎 過去10年間との比較

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/10/2096-weeklygraph/1659-18myco.html>

Topics 1

厚生労働省よりオロプーシェ熱についての事務連絡がありました

令和6年7月12日付け厚生労働省より事務連絡(オロプーシェ熱に関する情報提供及び協力依頼等について)がありました。

オロプーシェ熱は、中南米で蔓延している発熱を伴う感染症であり、主にヌカカというハエ目の微小昆虫やネッタイエカという蚊がウイルスを媒介します。現在のところ、ヒトからヒトへ感染するエビデンスはありません。

ブラジル、エクアドル、パナマ、ペルー、トリニダード・トバゴ、コロンビア、アルゼンチン、ボリビア、ベネズエラ、フランス領ギアナにおいて農村部や森林地帯を中心に患者が報告されています。現在ではヨーロッパにおいても輸入症例が報告されています。

オロプーシェ熱の症状は、発熱、頭痛、倦怠感、関節痛、筋肉痛等を呈し、その症状はデング熱と似ています。4~8日程度の潜伏期間を経て発症し、多くの場合2~7日間で改善します。

まれに髄膜炎や脳炎を発症することがありますが、公式に確認された死亡例は報告されていません。ほとんどの患者は後遺症を残すことなく回復しますが、一部の患者では筋力の低下が2~4週間続くことが報告されています。

医療機関の皆様へ

当該感染症は感染症法における届出対象疾病ではありません。

デング熱やチクングニア熱及びジカウイルス感染症の検査結果が陰性の場合には、オロプーシェ熱を鑑別疾患に加えていただくようお願いいたします。また、渡航歴等からオロプーシェ熱の可能性が考えられる患者を診察した場合には、当保健所まで情報提供をお願いいたします。

海外へ渡航される皆様へ

オロプーシェ熱に対する抗ウイルス治療法やワクチンはなく、感染予防のために蚊等の媒介昆虫に刺されないよう心がけましょう。現地で体調に異変を感じた場合は、速やかに医療機関を受診することをお勧めします。

また、海外へ渡航される方は、渡航前にFORTH(厚生労働省検疫所)等ウェブサイトでは訪問先の感染症流行情報を確認しましょう。オロプーシェ熱に限らず蚊媒介感染症(マラリアやデング熱等)が流行している地域へ渡航する際は、以下の点にご注意ください。



海外への渡航は 虫刺され に要注意!!



- ① 露出した皮膚には虫除け剤を使用してください
- ② 長袖のシャツや長ズボンを着用し、できるだけ肌の露出を避けましょう
- ③ 屋内では網戸やエアコンを使用し、蚊等の侵入を防ぎましょう
- ④ 蚊のいる環境では、就寝時には殺虫剤処理された蚊帳を利用し、昼寝の際も使用することをお勧めします
- ⑤ 虫よけ加工された衣服を必要に応じて使用してください



感染症解説

オロプーシェ熱

症状

4~8日

潜伏期間

2~7日

発熱、頭痛、倦怠感、
関節痛、筋肉痛等を呈する

寛解

2~10日以内

6割の患者は、再度
同様の症状を呈する

感染
経路

オロプーシェウイルスを保有したヌカカやネッタイエカに刺咬
されることで感染

【参考】厚労省：オロプーシェ熱について
<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/oropouche.html>

【参考】国立感染症研究所：オロプーシェ熱とは
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/12746-oropouche-intro.html>

【参考】FORTH：オロプーシェ熱-キューバ
https://www.forth.go.jp/topics/2024/20240705_00001.html

—— 定点医療機関における感染者数の報告は増加傾向です

市川保健所管内インフルエンザ発生状況（人）

	A型	B型	A+B型	AorB型※	臨床診断
報告数	10	0	0	0	0

※型非鑑別キット

（医療機関からの型報告なく不明な11例を除く）

第31週の千葉県全体の定点当たり報告数は、0.41(人)でした(図1)。市川管内の報告数は、0.67(人)でした(図2)。

第31週に千葉県内で報告のあった74例のうち、A型66例(89.2%)、B型2例(2.7%)となっており、A型が多い状況です。

感染対策

- ①手洗い・手指衛生
- ②マスクの着用・咳エチケット
- ③室内の換気
- ④室内の湿度の保持
- ⑤人込みを避ける
- ⑥ワクチン接種

【参考】千葉県感染症情報センター

<https://www.pref.chiba.lg.jp/eiken/c-idsc/documents/202431influenza.pdf>

【参考】厚労省：インフルエンザQ&A

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/infuenza/QA2023.html

図1

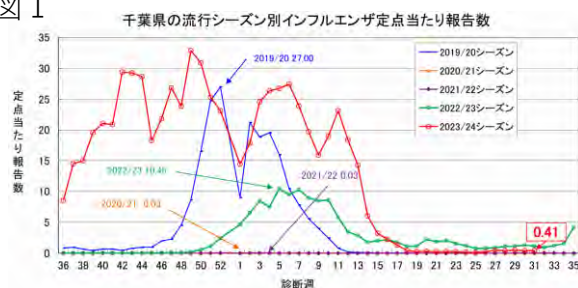
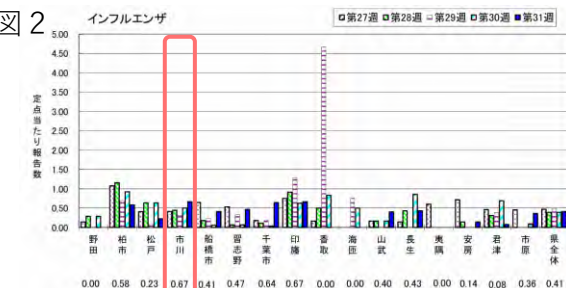


図2



お知らせ

- ・登録アドレスの廃止、変更等は下記アドレスまでご連絡をお願いします
- ・いちうら感染症情報は、毎月第2・4木曜日を配信予定としていますが、事情により配信が遅れる場合があることをご了承ください
- ・いちうら感染症情報の内容は主に公的機関の情報を基に作成し、できる限り最新で正確な情報発信に努めておりますが、各登録機関の責任においてご利用ください
- ・また、メールの安全性についても千葉県の情報セキュリティ対策により安全性の確保を図っておりますが、各登録機関におかれましてもセキュリティ等の注意をお願いいたします

配信元

千葉県市川健康福祉センター
（市川保健所）
いちうら感染症情報
ichiurainf@pref.chiba.lg.jp

市川保健所管内の感染症発生動向（最近5週）

● 管内 ▲ 県全体 — 警報基準値 ---- 解除基準値

マイコプラズマ肺炎とクラミジア肺炎は基幹定点のみCOVID-19、RSウイルス感染症、マイコプラズマ肺炎とクラミジア肺炎は警報基準値等の設定なし。

